

上位の政策名	政策目標5 優れた成果を創出する研究開発環境を構築するシステム改革	
施策名	施策目標5 - 4 優れた研究者・技術者の養成・確保	
主管課 及び関係課 (課長名)	(主管課) 科学技術・学術政策局基盤政策課(課長:倉持隆雄) (関係課) 科学技術・学術政策局調査調整課(課長:安部元泰) / 研究振興局振興企画課(課長:川原田信市) / 高等教育局大学課(主任大学改革官:小松親次郎)	
基本目標 及び達成目標	基本目標5 - 4 (基準年度:平成13年度 達成年度:平成17年度) --- 我が国の将来の研究活動等を担う優れた研究者・技術者の養成・確保	達成度合い又は進捗状況 概ね順調に進捗
	達成目標5 - 4 - 1(基準年度:平成13年度 達成年度:平成17年度) --- 「ポストドクター等1万人支援計画」の趣旨を踏まえ、ポストドクトラル制度等の質的充実を図りつつ、政府全体として優れた若手研究者に対し、フェローシップ等による1万人規模の支援を行い、若手研究者の自立性向上等を目指す。	概ね順調に進捗
	達成目標5 - 4 - 2(基準年度:平成13年度 達成年度:平成17年度) --- 競争的資金によるポストドクターを確保する機会の拡充を図り、研究指導者の明確な責任の下、若手研究者の資質向上を図る。	概ね順調に進捗
	達成目標5 - 4 - 3(基準年度:平成13年度 達成年度:平成17年度) --- ポストドクターの流動性向上に向けた環境を整備し、学位取得後の早い段階から、多様な研究環境の選択による若手研究者自身の創造性豊かで広い視野を有する研究能力の涵養を目指す。	概ね順調に進捗
	達成目標5 - 4 - 4(基準年度:平成13年度 達成年度:平成17年度) --- 技術士資格が欧米の同種資格と同程度に普及することを目指し、技術士登録者数の着実な増加を達成する。	想定どおり達成
	達成目標5 - 4 - 5(基準年度:平成13年度 達成年度:平成17年度) --- 海外の技術者資格との相互承認に向けた協議を進める。	概ね順調に進捗
現状の 分析と 今後の 課題	達成目標5 - 4 - 1 日本学術振興会の特別研究員事業において、平成14年度において、若手研究者の世界レベルでの活躍を期して「特別研究員(SPD)」を創設するなど、質的充実に向けた取組も推進されており、指標を踏まえ分析を行った結果、概ね順調に進捗している。	
	達成目標5 - 4 - 2 全ての競争的資金においてポストドクターを雇用する人件費計上が可能となる中、指標について分析を行った結果、平成14年度における競争的資金によるポストドクターの雇用者数が増大しており、概ね順調に進捗している。	
	達成目標5 - 4 - 3 日本学術振興会の特別研究員(PD)において、平成14年度の審査方針として「大学院在学当時の所属研究室以外の研究室を選定する者を優先的に配慮する」としたこともあり、指標について分析を行った結果、概ね順調に進捗している。	
	達成目標5 - 4 - 4 技術士の登録者数は毎年着実に増加しており、平成13年度末現在では45,780名、平成14年度末現在では49,625名となっている。また、最近5年間(平成10年度~14年度)の平均増加人数は約2,000名となっている。	
	達成目標5 - 4 - 5 APECエンジニアの具体的審査が行われており、これまでに約2,200件について、要件を満たすことが認められ、海外の技術者資格との相互承認に向けた協議が着実に進められている。	
基本目標達成 に向けての 進捗状況	優れた研究者・技術者の養成・確保に向けて、関連する達成目標の全てが概ね順調に進捗していることから、基本目標についてもほぼ順調に進捗していると判断。	
今後の課題	現在、科学技術・学術審議会人材委員会において、国際競争力向上のための研究人材の養成・確保に向けた検討が進められており、今後は、本委員会における検討結果を踏まえ、多様な研究人材が能力を発揮でき研究に専念できる環境の実現に向けた対応を図る必要がある。	
評価結果の15 年度以降の政 策への反映方 針 (政策評価法	達成目標5 - 4 - 1 平成15年度予算において、政府全体として合計10,598人のポストドクター等を支援するのに必要な経費が措置されたところであり、引き続き優れた若手研究者に対する1万人規模の支援を行う。また、日本学術振興会の特別研究員事業において、「21世紀COEプログラム」選定拠点に内在する若手研究者養成に優れた環境等の機能を活用した取組を推進するなど、本	

<p>第11条に基づく 総務大臣への 通知事項)</p>	<p>事業の質的充実を図る。</p> <p>達成目標5 - 4 - 2 競争的資金の予算拡充により、競争的資金によるポストドクターを雇用する機会の拡充を図るとともに、雇用実態の把握に努める。</p> <p>達成目標5 - 4 - 3 また、若手研究者の多様な研究環境の選択に向けた取組の一層の推進に向けて、日本学術振興会の特別研究員(PD)において、平成15年度より、原則として、出身研究室と異なる研究室で活動するもののみを採用することとしたところであり、その推進を図る。</p> <p>加えて、科学技術・学術審議会人材委員会における検討結果を踏まえ、多様な研究人材が能力を発揮できる研究に専念できる環境の実現に向けた対応を図る。</p> <p>達成目標5 - 4 - 4 技術士制度については、引き続き、技術士登録者数の着実な増加を図る。</p> <p>達成目標5 - 4 - 5 海外の技術者資格との相互承認に向けた協議を進める。</p>					
<p>指標</p>	<p>指標名</p>	<p>10</p>	<p>11</p>	<p>12</p>	<p>13</p>	<p>14</p>
	<p>「ポストドクター等1万人支援計画」対象事業による支援人数の推移(人)＜うち文科省＞ (達成目標5 - 4 - 1関係)</p>	<p>8,772 &lt;7,926&gt;</p>	<p>10,187 &lt;9,280&gt;</p>	<p>10,596 &lt;9,626&gt;</p>	<p>10,871 &lt;9,690&gt;</p>	<p>11,127 &lt;9,814&gt;</p>
	<p>競争的資金(文科省)によるポストドクターの雇用者数 (達成目標5 - 4 - 2関係)</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>1,175</p>	<p>1,811 ( 1 )</p>
	<p>日本学術振興会の特別研究員(PD)における新規採用者のうち出身研究室以外の研究室を選定した者の占める割合(%) (達成目標5 - 4 - 3関係)</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>47.7</p>	<p>62.4</p>
	<p>技術士登録者数の推移(人) (達成目標5 - 4 - 4関係)</p>	<p>39,160</p>	<p>41,890</p>	<p>44,840</p>	<p>45,780</p>	<p>49,625</p>
<p>備考</p>	<p>1.平成14年11月に調査した時点での平成14年度雇用者の見込み。</p>					

# 施策目標5 - 4 優れた研究者・技術者の養成・確保

## <背景>

新たな知識の創造、未来を切り拓く研究活動の一層の推進に向けて、次代を担う若手研究者の創造性や自立性を向上させ、その能力を最大限に発揮できる環境整備が必要

将来の研究活動を担う創造性豊かな優れた研究者や我が国の技術革新を担う優れた技術者の養成・確保が必要

技術士資格が欧米の同種資格と同程度に普及することを目指す必要

### <達成目標5 - 4 - 1>

「ポストドクター等1万人支援計画」の趣旨を踏まえ、ポストドクトラル制度等の質的充実を図りつつ、1万人規模の支援を行う。

#### <主な事業>

- ・特別研究員事業(日本学術振興会)
- ・基礎科学特別研究員制度(理化学研究所)



多様な支援制度の推進による創造性や自立性の向上

### <達成目標5 - 4 - 2>

競争的資金によるポストドクターを確保する機会の拡充を図る。

#### <主な事業>

- ・戦略的創造研究推進事業(科学技術振興事業団)
- ・科学研究費補助金(文部科学省、日本学術振興会)
- ・科学技術振興調整費(文部科学省)



研究指導者の明確な責任下での資質向上

### <達成目標5 - 4 - 3>

若手研究者(ポストドクター)の流動性向上に向けた環境を整備する。

#### <主な事業>

- ・特別研究員事業(日本学術振興会)



創造性豊かで広い視野を有する研究能力の涵養

### <達成目標5 - 4 - 4>

技術士登録者数の着実な増加を達成する。

#### <主な制度>

- ・技術士制度



優れた技術者の養成・確保

### <達成目標5 - 4 - 5>

海外の技術者資格との相互承認の具体化を進める。

#### <主な事業>

- ・APECエンジニア相互承認プロジェクト



我が国の将来の研究活動等を担う優れた研究者・技術者の養成・確保